

第6章

-推進体制と進行管理-



有明海(干潟)

各主体の役割を明確にし、相互に連携・協働しながら戦略を推進していく体制を構築します。

また、生物多様性に関する各種会議を開催し、取組の評価や進捗管理を行っていきます。

第6章の概要について

☆戦略の取組を推進していくための推進体制と進行管理についてまとめています。

構成

概要

6.1 推進体制 (P103)

各主体の役割を明確にし、相互に連携・協働しながら戦略を推進していく体制を構築します。

6.2 進行管理 (P104)

この戦略においては、PDCAサイクルによる進行管理を行い、「生物多様性推進会議」、「庁内推進会議」によって取組の評価を行い、年度ごとに公表し、必要に応じて見直しや改善を行っていきます。

第6章 推進体制と進行管理

6.1 推進体制

この戦略では、各主体の役割を明確にし、相互に連携・協働しながら戦略を推進していく体制を構築します(図 6-1)。基本方針は以下の通りとします。

- 生物多様性の保全や活用について、情報の共有や取組の推進、課題の対応を図っていくため、会議体(「熊本市生物多様性推進会議^{※1}」「庁内推進会議^{※2}」)で、戦略の進行管理を行います。
- 周辺地域とのつながりやめぐみを認識し、大学・研究機関や教育機関、国・県・市町村等の行政機関とも連携・協働しながら、戦略を推進します。
- 「いきもんネット^{※3}」が自然環境に関する情報の拠点となり、市や市民、市民活動団体、事業者等が相互に連携・協働しながら、戦略を推進します。

※1「熊本市生物多様性推進会議」(学識経験者や環境活動団体の代表など外部の有識者からなる会議体)の役割

- ・ 戦略の実施状況、実施内容のチェック結果について評価を行い、改善方法の提案を行います。
- ・ 各主体間で取組の推進や課題の対応に関する情報交換を行います。

※2「庁内推進会議」の役割

- ・ 戦略の各取組の実施状況、実施内容のチェックを行います。
- ・ 生物多様性推進会議での評価、提案をもとに、取組の改善・見直しを行います。
- ・ 庁内で戦略の共通認識を図り、取組に関する情報交換を行います。

※3「いきもんネット」について

- ・ 熊本市の生物や自然を守り、未来に引き継ぐため、生物多様性の保全や持続可能な利用に関する自主活動に取り組む市民活動団体や事業者、学校、行政機関などが情報を共有して、お互いに連携・協働を行っていくためのネットワーク。

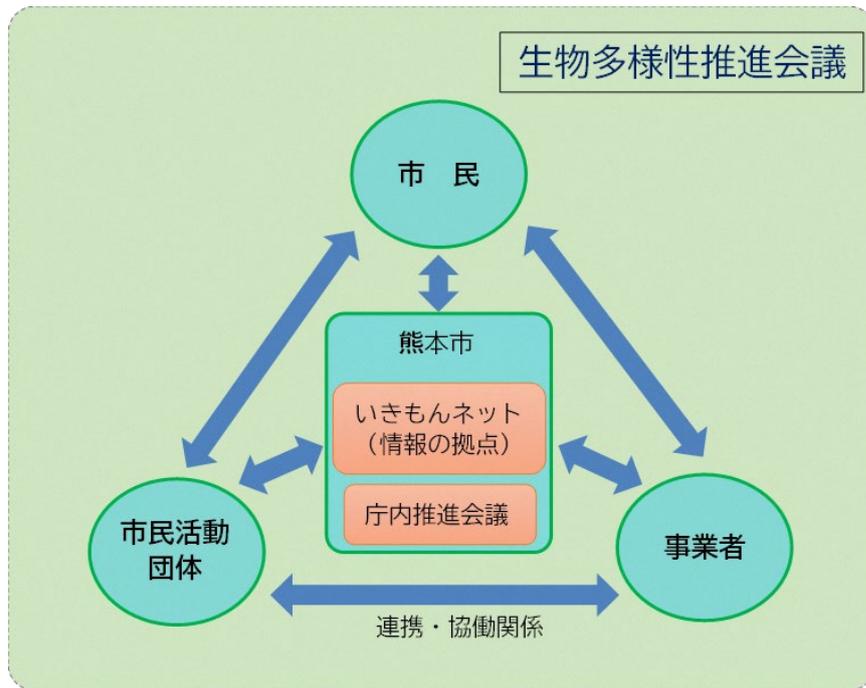


図 6-1 推進体制のイメージ

6.2 進行管理

この戦略においては、PDCA サイクルによる進行管理を行い、生物多様性推進会議、庁内推進会議によって取組の評価を行い、年度ごとにその結果を公表します(図 6-2)。また、進捗状況に応じて順応的な見直しや改善を行います。

目標年次となる令和12年(2030年)には、進捗状況及び課題を再評価し、次期戦略を検討します。進行管理にあたっては、取組の実施状況を踏まえつつ、現状分析と将来的な目標の設定を検討します。

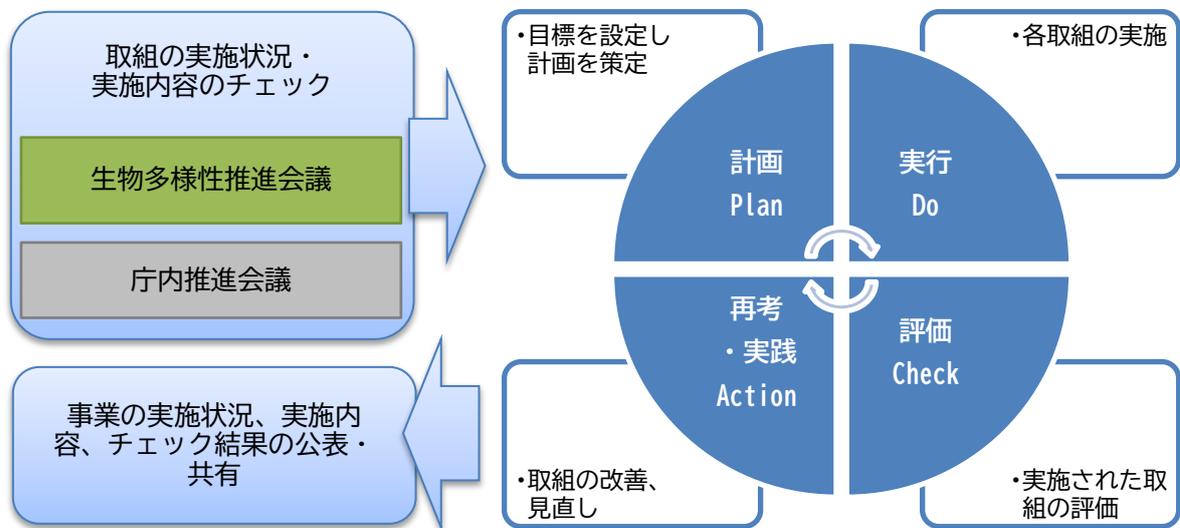


図 6-2 戦略の評価及び改定の手法